

キリスト教保育って？

東 義也（キリスト教保育連盟理事・尚絅学院大学）

はじめに

キリスト教保育って何？ キリスト教の教え・考え方に基づく保育
キリスト教の中心は？ 神さまとイエスさま
キリスト教について教えているのは？ 聖書（The Bible）

1. キリスト教保育における聖書の教えと保育の方法

（1）「神さまの創られた世界はすばらしい」

この考え方が前提 根拠は聖書

「神はお造りになったすべてのものを御覧になった。

見よ、それは極めて良かった。

夕べがあり、朝があった。第六の日である。」（下線筆者）

創世記1章31節

（2）「極めて良かった」という意味と保育の視点

「お造りになったすべてのもの」

（時間・歴史・生まれ来る新しい命を含む）

今生きる私たちについても同じ 子どもも私も！

保育の視点・子どもを見る視点

＝自分より神さまの視点の方が優先される

※ ☆で記した書籍はすべて、
キリスト教保育連盟発行

☆『新キリスト教保育指針』 p.23
「キリスト教保育とは」を参照

☆『キリスト教保育50の質問』
p.10～11 「キリスト教保育とは
どういうものですか」
p.22～23 「『聖書』とはどういう
書物ですか」を参照

☆『ともに育つ保育 入門』
巻末のキーワード検索(P.391)で「キ
リスト教の言葉」を探してみましょ
う。参考になる論文が見つかります。

・南信子

「生きる力、その生命力は、神から与えられているということに畏敬の心をもつことが、キリスト教保育のはじめであるといつてよい。」 (註1)

・教育とは善さの発見である

(3) 「極めて良かった」という内容と保育の方法

・ルソー『エミール』 (1762) (註2)

三種類の教師：自然・人間・事物

「環境を通して行う保育」の原点?!

自然=nature

=外的自然と内的自然 (本性)

=自発性、主体性など

内的自然 (本性) =自発性、主体性も神さまが造られたという理解

この、見えない力を引き出し発揮させる保育

…幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領と同じ

・南信子

「心に深い感動を与え、人間らしい心を育て、自然の背後にある造り主なる神を仰ぐ経験につながってゆくところに、キリスト教保育の尊い意味がある。」 (註3)

・ペスタロッチ『育児日記』 (1774) (註4)

外的自然の教育力 (人間以上の教師)

親・おとな・保育者の在り方 「沈黙せよ」 「随行」

※随行：目上の人のおあとについていく。また、その人 (漢和大字典)
地位の高い人や目上の人につき従って行くこと (大辞林)

(註1)

南信子「生きる力を(1)―子どもの環境をめぐる問題」『ともに育つ保育 入門』、キリスト教保育連盟、2018年、p. 74

(註2)

「私たちが生まれてきた時にはもっていなかったもの、そして私たちが大きくなった時に必要なもの、そういうものはすべて教育によって私たちに与えられる。この教育は、自然か、人間か、事物かによって私たちに与えられるものである。私たちの諸能力および諸器官の内部からの発達は、自然の教育である。この発達するものの使い方を私たちに教えるのは人間の教育であり、私たちに影響を及ぼしてくるさまざまな事物について、私たちが経験を積んでゆくのは事物の教育である。つまり私たちは誰でもこの三種類の教師によって形成されるのである。…」ルソー『エミール』1、明治図書、1970年、p. 19

(註3) 南信子、前掲書、p. 79

(註4)

「君は大自然の自由な講堂へ、君の子供の手をとって連れてゆくだろう。君は山や谷で彼を教えるだろう。…しかしこの自由の時間にあつては、自然の方が君よりもより以上の教師である。…ここでは自然が教え、君は随行する術をもってただ静かに傍を忍び歩かなくてはならない…小鳥の囀りが注意を喚起したり、珍らしい虫が木の葉の上を這ったりしている時には、君の言葉の練習を中止せよ。小鳥や虫の方が一層多くのことを一層よく教えているのだ。沈黙せよ。」ペスタロッチ全集第1巻、平凡社、1959年、p. 231

2. キリスト教保育と遊び

(1) 生活から遊びへ

- ・倉橋惣三『就学前の教育』(1931)

生活本位（生活としての実質を離れないこと、生活としての自然を失わせない）＝ありのままの生活、さながらの生活

「生活としての実質は、種々の要件をもつが、その第一要件は自発的ということである。」（註5）

「自発的な活動としての遊び」（幼稚園教育要領、教育・保育要領）
「生活や遊びを通して」（保育所保育指針）

- ・フレーベル『人の教育』(1826)

「遊ぶことは、この期における人間の発達、すなわち児童生活の最高の段階」

「遊戯は…喜び…自由…満足…平静…平和」

「この期における児童生活の最も美しい現象」（註6）

- ・倉橋惣三『幼稚園雑草』(1926)

「遊びほど幸福で貴いものはない」

「生きているということと同じ意味」（註7）

(2) 聖書における遊び—平和の象徴

「都の広場はわらべとおとめに溢れ／彼らは広場で笑いさざめく。」

ゼカリヤ書8章5節

「笑いさざめく」 קחש(sahaq、サーハーク、遊ぶ)

遊びは平和を象徴している

保育は平和を実現する営み

【参考】『讚美歌21』371番「このこどもたちが」（日本基督教団出版局発行）等

（註5）

倉橋惣三『就学前の教育』 『倉橋惣三選集』第三巻所収、フレーベル館、1965年、p.427

「生活を生活で生活へ」も倉橋の有名な言葉（『幼稚園保育法真諦』、1934年）

（註6）

「遊ぶこと、または遊戯は、この期における人間の発達、すなわち児童生活の最高の段階である。なぜかといえば、遊戯とはその言葉がすでに示すように、児童が自己の内面を自ら自由に表現したものの、自己の内面的本質の必要と要求とに応じて内面を外に現わしたものである。・・・遊戯はそれ自身において喜びであり、自由であり、満足であり、また平静であり、さらにまた、外界との平和であり、人にもまたこれらの感じを与えるものである。また遊戯はすべての善なるもの出てくる源泉である・・・児童が熱心に遊びに没頭し、十分に遊んでは疲れてよく眠り入るさまは、この期における児童生活の最も美しい現象ではないであろうか。」フレーベル『人の教育』フレーベル全集第二巻、玉川大学出版部、1976年、p.59

（註7）

「子供にとって遊びほど幸福で貴いものはない。子供の遊びはつまり子供の身体と心との狂んな活動が外に現われたのに外ならないものであって、子供が遊ぶということは大袈裟に言えば、つまり子供が生きているということと同じ意味であるといってもいいのです。」倉橋惣三『幼稚園雑草』倉橋惣三選集第二巻、フレーベル館、1965年、p.135

3. 礼拝

(1) 礼拝をする理由

与えられているもの、ことに対する感謝の応答
自発的に、双方向に

聖書 お話 → (対話) ← 賛美 祈り

(2) ミニ礼拝

賛美：「ちから」 幼児さんびかⅡ (p. 15) (註8)

聖書：ルカによる福音書 19 章 5 節

「イエスはその場所に来ると、上を見上げて言われた。
『ザアカイ、急いで降りて来なさい。』」

お話：ザアカイのお話

祈り：

賛美：「ひとりひとりのなをよんで」 幼児さんびかⅡ (p. 20) (註9)

まとめ

キリスト教保育は自分にもできるのか？ という問い

キリスト教保育

- ・礼拝やお祈りをするだけではない
確かに子どもの魂に信仰の芽が育つことを願っている
しかし、それは礼拝によってだけ達成されるものではない
- ・うれしい生活、楽しい遊び、喜びの充実が欠かせない

キリスト教保育の真のリーダーはイエスさま

成長させてくださるのは神さま (註10)

主はお前のゆえに喜び楽しみ

愛によってお前を新たにし

お前のゆえに喜びの歌をもって楽しまれる。

ゼファニヤ書 3 章 17 節 b

(註8)

- 1 かみさまください
げんきなちからを
みんなといっしょに
あそぶちからを
- 2 かみさまください
たすけるちからを
みんなといっしょに
たすけるちからを
- 3 かみさまください
しんじるちからを
みんなといっしょに
いきるちからを

(註9)

- 1 ひとりひとりのなをよんで
あいしてくださるイエスさま
どんなにちいさなわたしでも
おぼえてくださるイエスさま
- 2 ひとりひとりをあいされて
うれしいときにはよろこびを
かなしいときにはなぐさめを
あたえてくださるイエスさま

☆月刊誌『キリスト教保育』では毎月礼拝のお話を掲載しています。
バックナンバーも参考に。

(註10)

「私が植え、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させてくださったのは神です。ですから、大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださる神なのです。」
コリントの信徒への手紙一 3:6, 7

学びを深めるために ～ キリスト教保育連盟発行の書籍から ～

はじめに

- ☆『ともに育つ保育 入門』 P.195～196 「キリスト教保育とは」
キリスト教保育の目的について語られています。

1. キリスト教保育における聖書の教えと保育の方法

- ☆『キリスト教保育ハンドブック』 P.43～47 「IV 保育の内容」
自然、遊びこめる環境、つくり出す環境、安全な環境など、子どもを取り巻く環境を見直しましょう。

2. キリスト教保育と遊び

- ☆『キリスト教保育 50 の質問』 P.30～47 「II 保育の実践」
遊びを大切に保育、子どもの生活する力、保育の中の人権と平和などについて記されています。

- ☆『キリスト教保育ハンドブック』 P.29～31 「III 子どもの育ち」
子どもの発達の見方、遊びの大切さ、好奇心や探求心など、子どもの育ちをとらえるために。

- ☆『新キリスト教保育指針』 P.43～52 「II 保育の内容と展開 2 保育展開の基本」
どうして遊びや環境が大切なのか、具体的な保育内容を考える際に参考になる箇所です。

- ☆『ともに育つ保育 入門』 P.165～177 「今を生きる（1）ー子どもとともに」
具体的なエピソードを交え、保育の計画を“今を生きる子ども”という視点から問い直しています。

3. 礼拝

- ☆『新キリスト教保育指針』 P.38～42 「I 保育を支える礼拝」
礼拝の準備のしかたや留意点がまとめられています。賛美歌？お祈り？など具体的に知りたいときに。

- ☆『キリスト教保育ハンドブック』 P.19～25 「II キリスト教保育に携わる」
子どもと守る礼拝、子どもに語る聖書、祈りやさんびなどについてまとめられています。

まとめ

- ☆『キリスト教保育 50 の質問』 P.64～69 「IV 保育者」
保育者として大切にしたいことが記されています。

- ☆『キリスト教保育ハンドブック』 P.12～13 「I キリスト教保育への招き」
子どもも大人もキリスト教保育の場に招かれていることを再確認しましょう。